

オニヤンマ

Anotogaster sieboldii

オニヤンマ科



オニヤンマ。右は幼虫（ヤゴ）

名前の由来

厳しい顔つきと黒黄の斑模様からトラの皮の褌を締めた鬼を連想して名づけられたという。ヤンマの語源はよくわかっていない。トンボのうち、田んぼの周辺に発生する中型のトンボを「田ん坊(たんぼう)」と呼び、山地の方にすむ大型のトンボを「山ん坊(やまんぼう)」と呼んだのが、それぞれ「トンボ」と「ヤンマ」になった、と考えては、という説もある。漢字名：鬼蜻蛉

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原) 鳥類
樹林

形態的特徴

体長80～93mm。胸部と腹部に黒地に黄色の斑紋があり、複眼が鮮明な緑色をしている。

類似種と見分け方：コオニヤンマ、エゾコヤマトンボ、オオヤマトンボ。両複眼が1点で接しているのがオニヤンマ。

生息環境・分布

平地から低山地の小川や湿地に生息している。

分布：台湾に分布。国内分布は、沖縄県西表島以北。北海道内では、全域に分布しているが、北部ではやや稀。

十勝地方では、平野部で見られることは少なく、主に山間部の細流に生息している。幕別町、新得町、足寄町、浦幌町などで確認されている。

食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、ボウフラ、小魚、オタマジャクシなどの水中の小動物。成虫になるとカアブ、ハエ、ハチ、チョウなどの昆虫類やクモ類を捕食する。1日に体重の10%の餌を食べるといわれている。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫になるとクモ類（網にかかった場合）やチゴハヤブサなど小型の猛禽類に捕食されているものと思われる。

繁殖生態・寿命

卵は約35日で孵化し、4～5年間を幼虫で過ごし、成虫は5月上旬から9月中旬に見られる。産卵はメス単独で行われ、浅い砂泥の中に産卵する。

寿命：幼虫期間3～5年、成虫期間1～2ヶ月。

興味深い話

■日本最大のトンボで、十勝地方では主に山地の細流で見られる。成虫になるまで3～5年と長い間、安定した水域でなければ生息できない。

■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンクカチュイ」という。

配慮事項

幼虫の生息環境である山地の細流が、周辺の樹林とともに維持されることが必要である。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期												
成虫期												

参考文献

「蝦夷の蜻蛉」 広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993
「北海道のトンボ」 二橋愛次郎 エコネットワーク 2002
「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」 石田昇三・石田勝義・杉村光俊 東海大学出版会 1988
「講談社カラー科学大図鑑 トンボ」 枝重夫 講談社 1982
「日本産トンボ大図鑑」 浜田康・井上清 講談社 1985
「トンボのすべて」 井上清・谷幸三 トンボ出版 1999

「カラー日本のトンボ」 石田昇三・浜田康 山と溪谷社 1973
「自然の観察事典⑦ギンヤンマ観察事典」 小田英智・松山史郎 偕成社 1996
「名前といわれ 昆虫図鑑」 栗林慧・大谷剛 偕成社 1987
「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」 更科源蔵・更科光、法政大学出版局 1977